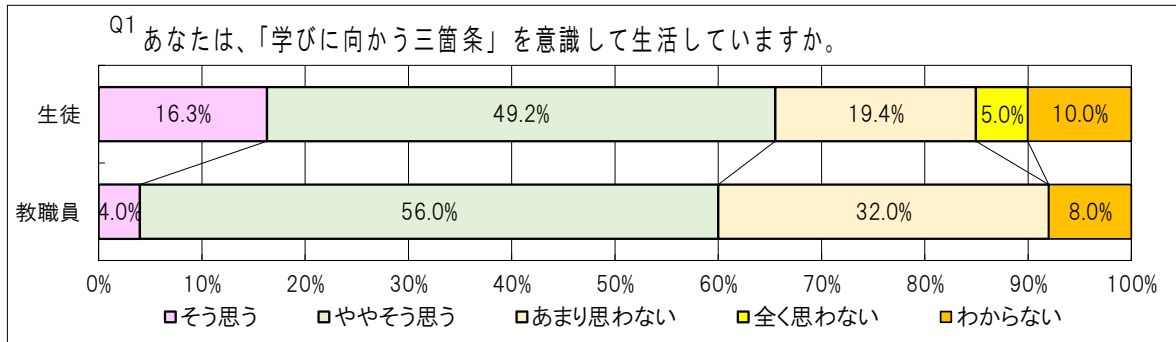
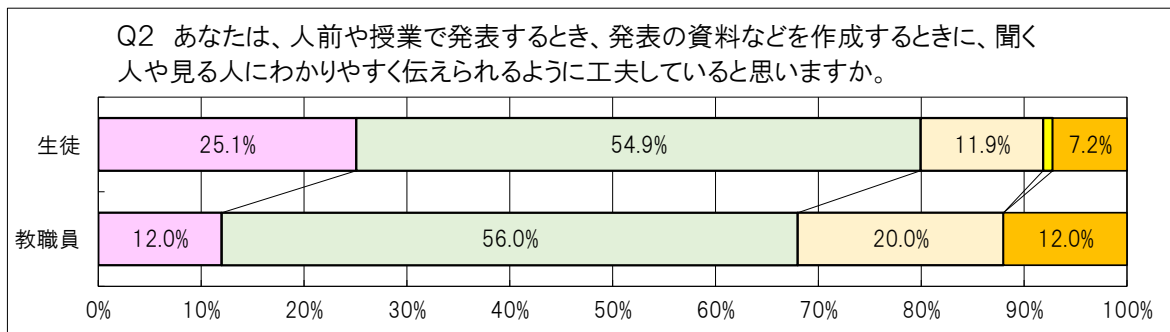


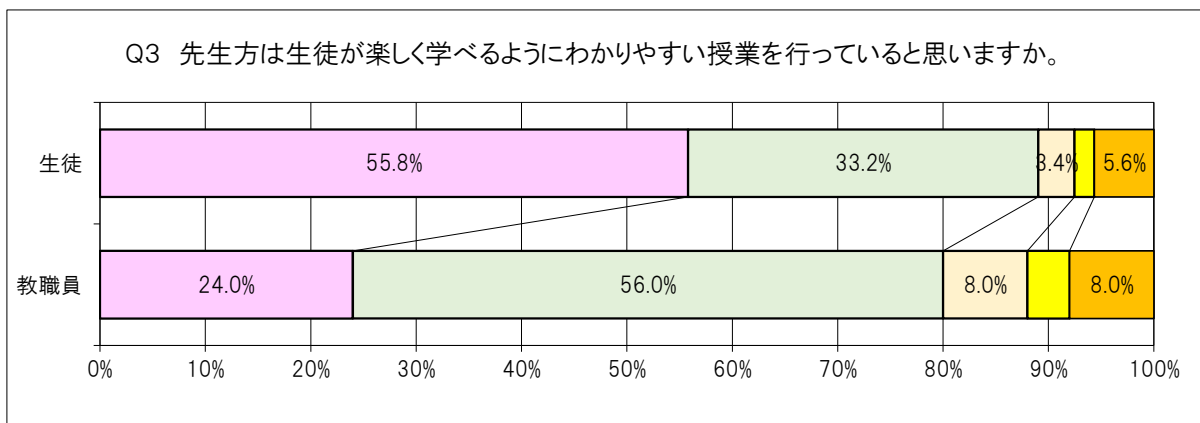
令和6年度 全校生徒、教職員 学校評価アンケート結果【前期】



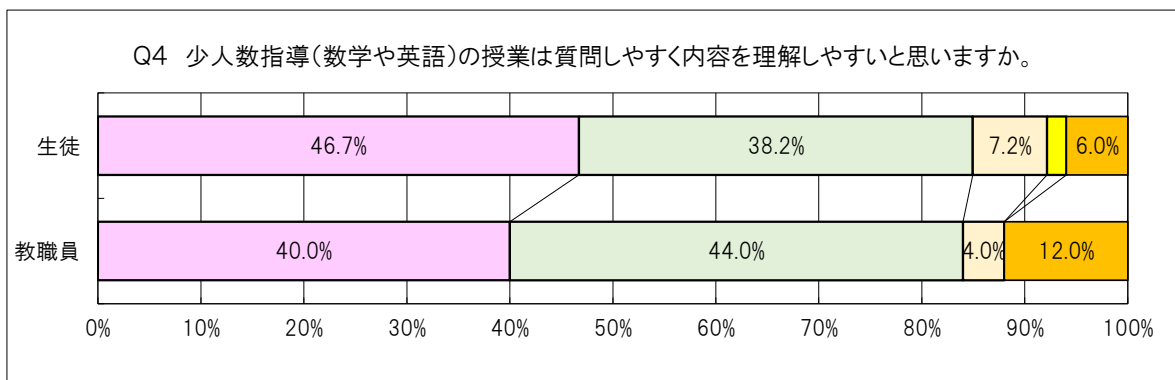
ここ数年、教職員は「思わない」の割合が多く、生徒との意識の差がありました。本年度は、教職員から見ても「思う」割合が増えており、生徒自身の主観ではなく実際に意識して行動できる生徒が多くなってきているようです。本年度から三箇条の一つに、学習の中から「なぜ？」を見つける内容が加わりました。生徒が疑問を解決できるように支援をしていきます。



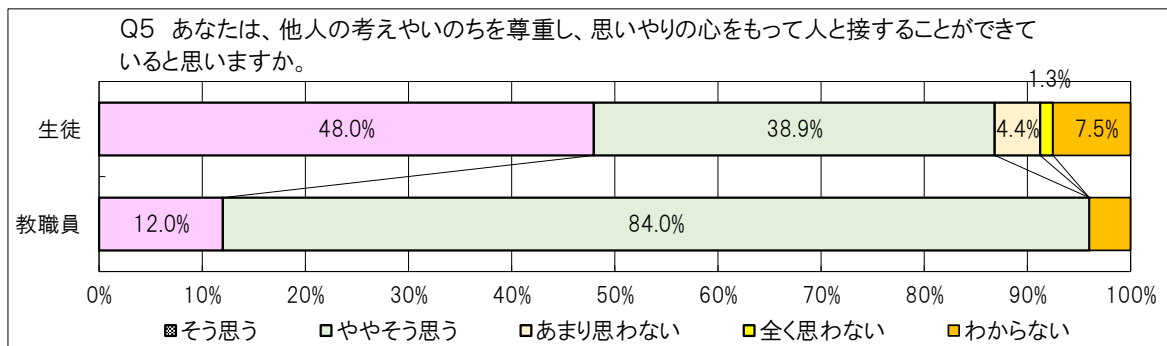
8割以上の生徒が、他者意識をもって自分の考えを伝えようとしています。教職員も、生徒の工夫を以前にも増して感じています。授業やコミケ(コミュニケーション力を高めたり、仲間との関係性をよくしたりする時間)を通して、伝える力を更に高めていきます。



昨年同様に約9割の生徒が、楽しくわかりやすい授業だと回答しています。その一方で、授業がわかりにくいと感じている生徒もいます。今まで以上に個に応じた指導や支援ができるように研修を積んでいきます。

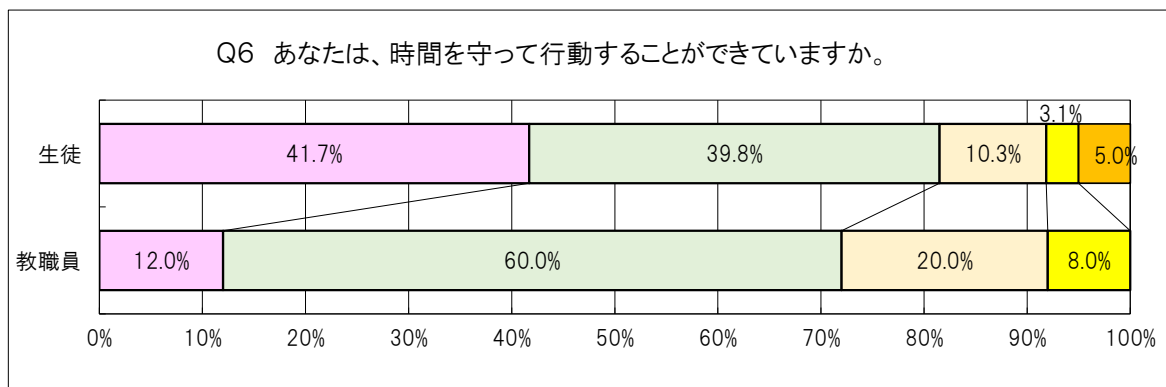


本年度も、多くの生徒が、少人数指導を内容が理解しやすいと回答しています。目的別コース選択制の授業を導入して3年目となり、教職員もコース別での学習方法についてを研究し、経験を蓄積してきました。更に楽しく学べる授業ができるように研修を重ねていきます。

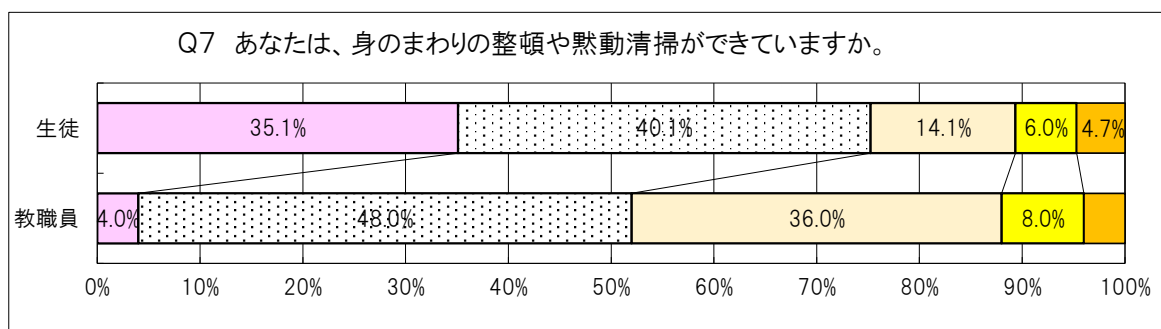


ほとんどの生徒が思いやりの心をもって接していると、生徒も教職員も感じています。しかし、そうでもないと感じている生徒が一部いることも事実です。

学校は全生徒にとって安全・安心な場所ではなくはなりません。小さな変化も見逃さないように生徒の様子を見守り、支援できるようにしていきます。

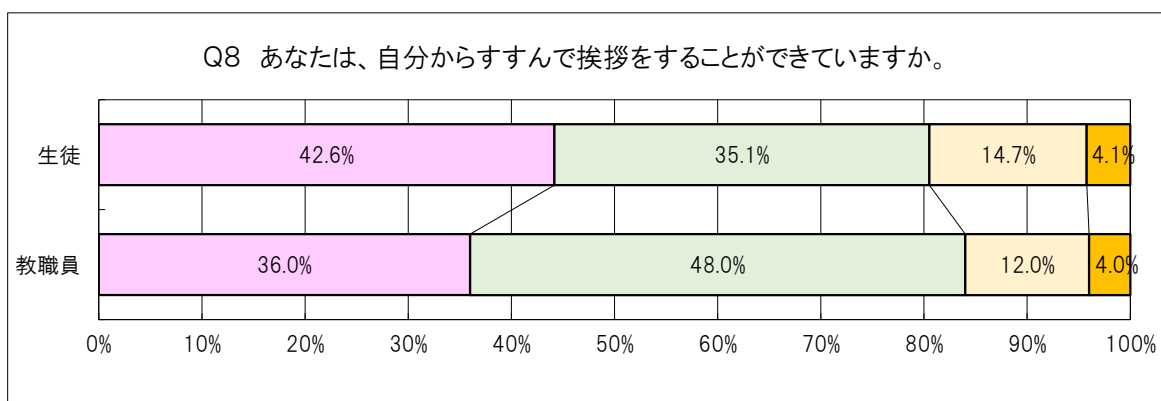


教職員の評価は上がっていますが、生徒たちの評価がやや減少気味です。時間を意識し、自分の生活行動をコントロールする力を身につけていくことは、社会に出た際にも必要です。本校はノーチャイムが日常になっています。時間に対する意識を高める声かけをしながら、生徒たち自身で時間を守っていける雰囲気づくりをしていきます。

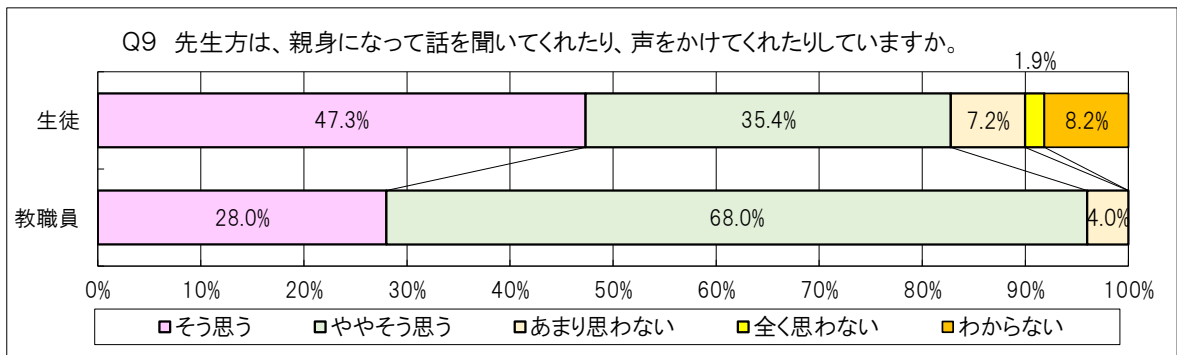


黙動は黙ることが目的ではありません。「短い時間で自分たちの使った場所を自分たちで効率よく整える」ことを大切に週3回の清掃を行っています。

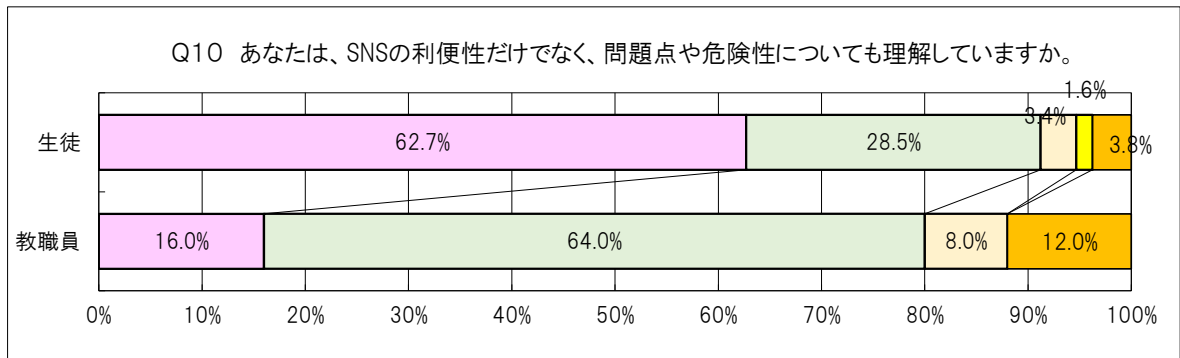
自分の役割を果たし、真剣に取り組む生徒がたくさんいます。掃除が苦手な生徒もいますが、教職員と共に豊城中学校を美しく気持ちのよい学校にしていく声かけを継続して行っています。



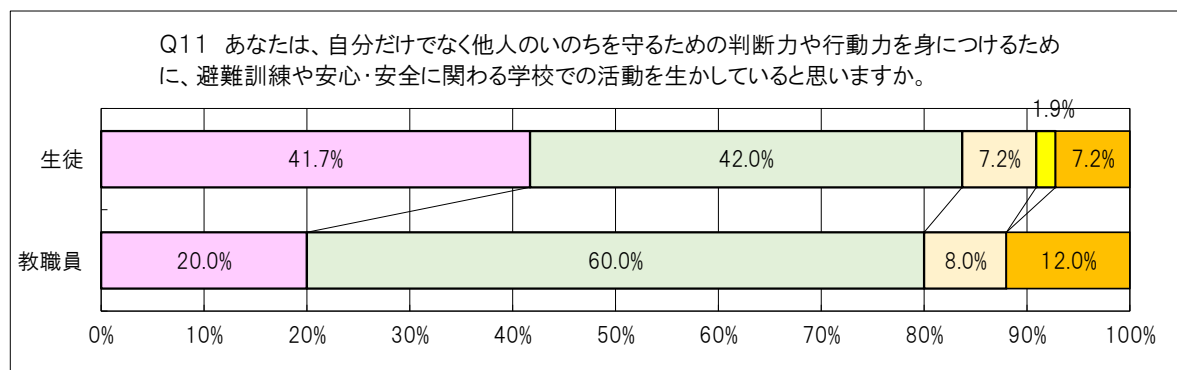
昨年12月から挨拶のできる生徒の割合が増加しています。それには、毎朝主体的に挨拶運動をする3年生の存在も影響していると感じます。必要だと感じるたことを継続して実行できるリーダーが、挨拶のモデルになっていることに頼もしさを感じます。このような動きを原動力に、受け身ではなく先に挨拶するような声かけを行っていきます。



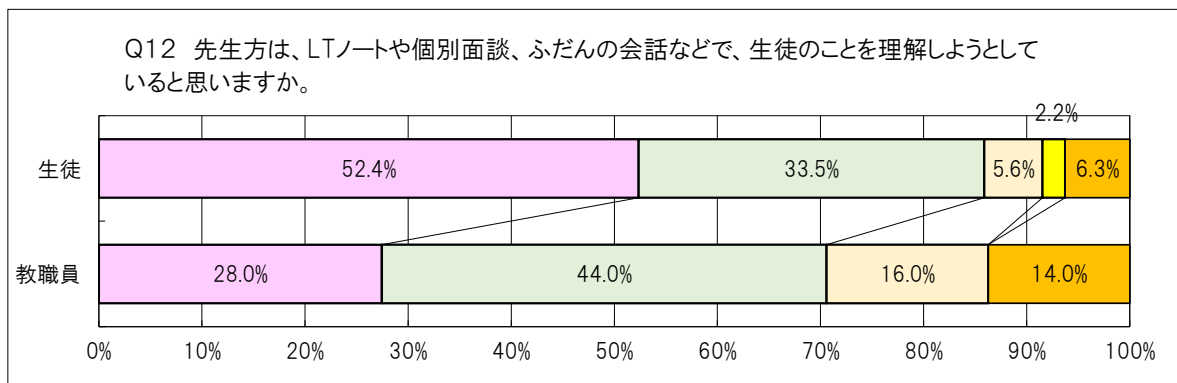
教職員は生徒たちの日々変化する思いや、思春期特有の複雑な思いなど、あらゆる場面で関わるようにしています。生徒や家庭との信頼関係づくりを大切に、生徒たちが安心して生活できるよう、なにげない会話はもちろんのこと、相談週間なども活用しながら生徒と向き合っていきます。



毎年7月にスマホ講座を開催し、SNSの危険性について学ぶ機会をつくっています。スマートフォンが普及し、生徒たちにとって日常で使うことがあたりまえになっています。わかっているけど、楽しさや便利さに流されてしまうケースも多いと感じます。各家庭でのルールづくりや、時間の管理など、お子さんと話し合う機会をつくっていただきたいと思っています。

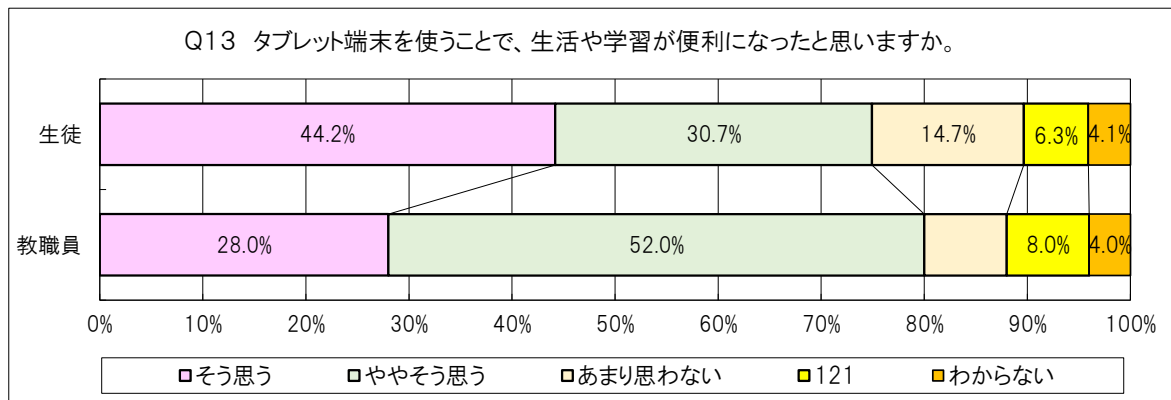


今年7月に、初めての「南海トラフ地震臨時情報」が出され、地震に対する意識が高まりました。本校では、南海トラフ地震の際の生徒や教職員、保護者の皆様の動きを確認する引き取り訓練では、いざという時の動きを確認することができました。今後は生徒たちが実際に動いて考える機会を設定することで、自分だけでなく、他人の命を守る行動力を磨いていきたいと考えています。

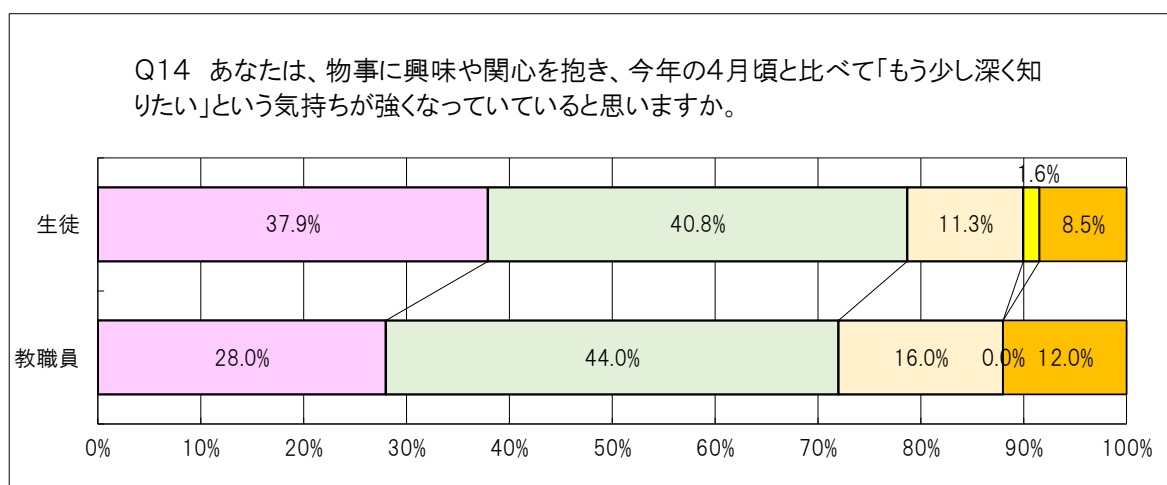


多くの生徒たちは、教師が生徒のことを理解しようとしていると捉えていることが分かります。教職員の割合が低いのは「丁寧にLTノートを見てあげたい」「もっとじっくり生徒たちとふれあえる時間がほしい」という願いがあると捉えることもできます。

放課や給食の時間、部活動、行事などの生活場面や相談週間など、生徒たちとの会話を大切にしていきます。



授業の中でタブレット端末を日常的に利用するようになり、文房具のように扱うことができるようになってきました。今後も、今まで以上に多くの場面で活用していきたいと考えています。使い方のルールや情報モラルについてなど、ご家庭でも話題にさせていただけるとよろしいかと思ます。



約8割の生徒が知的好奇心をもって授業に取り組んでいるようです。生徒と教職員の意識の差も少なく、生徒が自らを客観視できていることがわかります。

今後も、生徒の「なぜ？」を大切にしながら授業を展開できるように研修を積んでいきます。